

宇陀市学校規模適正化検討委員会第4回中間報告会 記録

令和2年10月17日(土) 14:00~15:30

室生振興センター 研修室A・B

出席者

【一般参加者】10名 【宇陀市学校規模適正化検討委員】1名【宇陀市教育委員】1名

【宇陀市教育委員会事務局】8名 計 20名

参加者 A	<p>私は学校で今回の案内をいただいたが、参加するのにハードルが高かった。ここに来て本当に話を聞きたいと思う人は、子どもが小さくて、来たくても来ることができない人がたくさんいると思う。本当に教育委員会の皆さんが今後の子どものことを考えて、子育て世代に寄り添おうとしているのなら、子育て支援センターなど小さな子どもをもつお母さんたちが集まる場に行き、堅苦しい会議ではなく、座談会のような形で生の声を聞いたらどうか。ホームページでも周知されると思うが、どれだけの人がそれを見るのか。アンケートも取っていただいたが、市が用意した選択肢に答えるだけ。その他の意見を書く欄もあるが、子どもの世話をし、家事をして、仕事もしてという人がどれだけそこに書き込めるのか。もっと近い距離で忌憚なく意見交換することができたら、言いたいお母さんたちはたくさんいると思う。実際にその学校に通うのは、現在、幼稚園や保育園にも通っていないお子さんが中心になるので、そういうお子さんをもつお母さんたちが、どんな学校なら行かせたい、どういう宇陀市なら住み続けたいのかという話を具体的に聞いて欲しい。</p> <p>あと、子どもの学力に関して国語力が低いことから、読書に力を入れたいという話もあったが、現在の各小学校の図書室の利用状況をご存知か。私は、今、中学校1年生の長男が幼稚園の時に宇陀市に引っ越してきた。小学校に入ったとき、図書室はいつでも開かれているものだと思っていたので、先生に鍵を開けてもらわないと入れないことに驚いた。先生や学校に図書室をもう少し開放するようにお願いした結果、榛原小学校では、図書ボランティアという組織をつくり、保護者も昼休みに図書の貸出しの手伝いをしている。私は月に1回行けるかどうかという状況だが、幼稚園児のお母さんや図書委員の子どもたちの協力により、昼休みと中休みに図書室を開放している。が、やはり、特定の子どもしか来ないように思う。本が好きなお子以外の子どもにも、どうやって本を読んでもらうかを考えたとき、読書通帳を提案したい。銀行の通帳と同じような様式で、機械を通せば、本の名前と貸出日、出版社名、定価が印字される。自分が読んだ本の履歴が目に見える形で通帳に記録され、それが1冊いっぱいになったとき、これだけ読んだという実感をもてるし、子どもたち同士が競い合うことで確実にきっかけになると思う。また、通帳がいっぱいになれば、市から本を1冊プレゼントするとか、学校から表彰されるとか、そういったことがあればさらに意欲につながると思う。今、榛原小学校では、先生やボランティアによるお話会もあって、おすすめの本を読んでもらうなどいいこともしていただいているが、子どもが自ら読書に向かうきっかけに、読書通帳はとてもよいのではないかと。私も発売されたとき「いいな」と思い、学校への普及モデルが80万~100万円だと聞いたので、宇陀市は子どもの数も少なくなっているから、通帳を一冊ずつ配るのは大変なことではないと思う。子どもたちの学力を上げるためにはどうしたらいいか、もっと具体的に、子どもに寄り添う形で考えていただきたい。</p>
----------	---

	<p>行政の考えというより、実際住んでいる人たちの生の声を聞いて欲しい。その聞ける、言える場を作って欲しい。報告会を4回もしていただき、機会を与えてくださっているとは思いますが、本当にハードル高い。行きたいと思っている人もたくさんいると思う。行けるのなら行きたいけど、例えば、私が「こんな会議やったよ」って言ったら、「そんなんよう行かんわ」と皆さんはきつと言うと思う。でも、私が今回の内容を話したら、「もっとこうなったらいいのに」とも言うと思う。だから、もっと声を聞きに行き行って欲しい。</p>
司会	<p>小さな子どもをもつ保護者の声を聞くという貴重なご意見いただいたので、事務局にもち帰り、更に工夫する点がないか検討したい。また、国語力につながる読書力を高めるための読書通帳というご意見も参考にして、学校にも、具体的に読書力を高める指導に力を入れてもらえるよう伝えていきたい。</p>
参加者 B	<p>私には子どもが2人おり、上の子が小学校1年生で2学級に分かれているが、38人ほどの学年なので、来年度には1学級になるのではということが気になり参加した。私は、やはり20人前後の学級が望ましいと思う。大勢の中でも発言できる子どもはいるが、中には自分の思いを伝えられない子どももあり、そういう子どもも発言しやすい環境としては人数が少ない方がいい。また、私は支援員という立場で小学校の40人学級に入っているが、子どもたちに力を付けるために与えた課題を、決められた時間の中ですべて丸付けする先生の負担は大きいと感じる。先生の負担が大きくなるほど、子どもたちに行き届かない部分が出てくるという心配があるので、やはり先生にとっても子どもにとっても20人前後が望ましいと思う。アンケートでも21人から30人程度が適当だと考える保護者が多いということだが、やはり国では、子どもの数が何人に対して先生が何人となると思う。本来なら1学級のところを2学級にするとすると、その分、先生が多く必要になる。その先生に対して賃金を払わないといけないので、その辺り実際に可能か。</p>
事務局	<p>定数については子ども何人につき教員何人というのが法律で決まっているので、例えば、1学年の子どもの数が41人であれば20人学級と21人学級という理想とされる学級編成が可能だが、39人とたった2人の差で1学級になる。そういう学級については、国の少人数加配を積極的に活用できるように努めていきたい。また、国でも今回のコロナ禍に関わって、少人数学級実現に向けた議論が行われているが、結局のところはお金の問題となる。加えて、今、先生になりたいという人が少ない中で、それだけの数の教員を確保できるのかという点も課題となっているが、市としては今後とも確保に努めていきたい。</p> <p>また、先生の数が限られている中で、先ほども学校図書館にボランティア入っていただいているという話があったが、外部の人材がそうやって関わっていただいていることは市としても大変ありがたい。できる範囲で地域の人材にいろいろ関わっていただき、学校を助けていただければと思う。今日ここに来られている皆さんのように、子どものことを真剣に考えてくださる方が他にも沢山いると思う。そういった方の協力を得ながら宇陀市の子どもを育てていければいいと思っているので、ご理解、ご協力をいただきたい。</p>
参加者 C	<p>私は前回も参加したが、なぜもう1回来たかという、適正化検討委員会の中間報告となっているのに、検討委員会で何を検討したのか今日の話でも分からない。例えば、宇陀市の児童生徒の人数とか、学力の実態とか、問題行動とかそういうことは出て</p>

	<p>いるが、検討委員会で話されたことは何なのかが分からない。そこを教えて欲しい。</p>
事務局	<p>最初に説明したように、今回の検討委員会の諮問事項が小・中学校の適正な規模ということで、1中学校または1小学校あたりの学級数であり、例えば、統廃合となれば、どの程度の学級数が適当なのかを考えることになる。ただ、先ほど答えたように、人数については国の法律や予算との兼ね合いもあるので希望を聞くだけの形に終わっているが、まずは、宇陀市としてどれぐらいの学級数の学校がいくつくらいあれば適当かということについて、答申を出さなければいけない。宇陀市全体として、どれぐらいの小中学校の数が適当なのかという点について、今後、検討委員会の中で、本日の意見も踏まえて答申を出し、それを基に次年度以降、具体的な数や場所を考えていくことになる。</p>
参加者 C	<p>検討委員会では適正な規模の学校について今までどう話し合われてきたのか、そういう話が出てこない。アンケートで保護者は1学級 21~30 人程度が2~3学級を適正としている。その結果に基づき、検討委員会では、現段階でどう集約しているのかをこの場で報告して欲しい。そんな東吉野小と川上小のWeb授業や野迫川小の複式授業を見せてもらっても、あんなことを検討しているのではないのではないのか。何を話し合っ、現段階こう考えているということを示して欲しい。</p>
事務局	<p>答申に向け、具体的には今日の話合いも踏まえて検討することになる。現時点ではアンケートを基に、多くの方の意見を聞かせていただき、もし、統廃合が適切でないというのであれば、必要な環境整備を進めていくといったことを考えている。今回の報告会では、市民の意見を伺っているのが現状で、検討委員会も実はコロナの影響で3回しかできておらず、アンケート結果が現在の考え方の拠り所となる。どれだけ話を詰めているのかという意見もあるかと思うが、今はアンケート結果や報告会での意見を基に、今後の方針を決めていくといった段階であることを理解いただきたい。</p>
教育長	<p>話を補足すると、議会の承認を得るために、いつ頃からこの話を始めればよいかを教育委員会で検討する中で、何校かで小規模化が始まっているという現実もあり、もうこの辺りで始めなければ、数年先には間に合わないということで、平成30年度に検討委員会の立ち上げを考えた。そして、令和元年11月に第1回目の会議を行った。ここでは、委員の委嘱を行うとともに宇陀市の現状を報告し、これから検討いただく諮問の内容、つまり、どの程度の規模の学校をつくれればよいかということや小・中学校の配置のバランスの2点をテーマとした。1回目は、こういうことをお願いしたいという場であったので。本市の児童生徒の学力や体力などの現状報告をした。その中で結論として、保護者や教員の意識を調査するためにアンケートをとるということで終わっている。その後、検討委員とやり取りをしながらアンケートの調査項目を精査し、12月中旬から月末にかけてアンケートを実施した。令和2年2月に実施した2回目は、アンケート結果の集約ということで先ほどの報告のとおりだが、この結果を今後の施策に反映させるために、その後の3回目の会議で、アンケート結果の考察を行い、中間報告としてまとめる中で、地域の声も聞く必要があるのではないかとということで今回に至っている。コロナ禍でもあり、どういう形が一番来てもらいやすいか検討したが、十分に声を拾いあげていないというご意見もいただいた。それらも反映して、次回4回目の規模適正検討委員会で総まとめしていく形で、答申の原案づくりに入り、答申ができれば、検討委員会の方でも意見をいただき、市民にも公開し、意見をいただこうと考えているところ。</p>

司会	<p>今回は報告会となっているが、教育委員会としては、適正規模についての意見を皆様に伺いながら、それを踏まえ、よりよい学校規模というものを考えようという趣旨で行っているので、その点を含んでいただくようお願いする。</p>
参加者 D	<p>「適正化」という言葉を市民の皆さんが見れば、「またくっ付けんねんな」とまず考えると思うが、今日の話聞いてると、それを選択しないこともあるということだったので、はっきり言うと、私は室生に小学校も中学校も残していただきたい。くっ付けたいという気持ちは毛頭ない。ただ、これは個人的な意見なので、要望したいのは、最初にあったように、聞きたい人はたくさんいると思うし、意見を述べたい人もたくさんいると思うので、結論が出るまでに必ず大多数の人の意見を聞いていただきたい。先ほどのアンケートでは通学時間が30分という話だったが、30分もあればここから大宇陀まで行ける。つまりどこでも合併できるということ。建物とか、学校の位置がどうかそんなことを言っているのではなく、地域にはそれぞれの文化もあれば、生活スタイルもある。それぞれの地域に学校があるということが、我々が生まれ育った地域を後世に託し、育てていくための環境に繋がると思う。「最初に合併ありき」という話が出てこなかったのでひと安心したが、そういう話ではなく、建設的な意見、そういう意味ではICTの話に私は大賛成。生徒1人にタブレット1台が支給されるという話もあり、先ほど見せていただいた動画のようなことができれば今後にも繋がると思うので、ぜひ早急に進めていただきたい。日本が立ち遅れてはダメだということで、国策として進められているので、この小さな場所からどんどん進めていけばいいと思う。</p>
司会	<p>10年後20年後を見据えたご意見ということで、今後検討して参りたい。</p>
事務局	<p>先ほど野迫川や川上の授業の様子を見ていただいたが、多くの人が複式授業を受けたことがないと思うので、見ていただければよく分かると思った。今回の報告会に関わって参加定員を30~40人と想定していたが、お忙しいこともあるのだろうが、意外に少なく、市民としてまだ先の話と思われる方が多いのではないかと感じる。しかし現実には、今年、室生で生まれた子はあと7年後、あのような授業を受けることになるかもしれないということを、今回の報告会で市民の皆様にご存知いただいたかった。なので、今日、貴重な意見をいただいたが、市が出前で意見聴取するのも一つの方法だと思う。その上で、これからお子様を入学させる方の考えがICTを活用すれば複式学級もいいという選択になるのか、それとも、今までより5分長くバスに乗せたら、たくさん的人数で授業ができるのだから、そちらの方がいいとなるのか、そういった意見をいただき、それを基に計画を進めたい。我々としては、これからの子どもに適切な教育環境を整えること、それが合併なのか、複式で遠隔なのか、そういったこと検討するために多くの意見をいただけたらと考えている。要するに、宇陀市は十分な教育環境が整っていないから転出したいという保護者は無くしたい。どんな学校の規模であっても、「宇陀市に住んでいたら、しっかり教育をしてくれる」と言われる環境を整えるのが我々の仕事だと思っている。そのためには、やはりたくさん意見をいただきたく、本日参加された皆さんには感謝している。</p>
参加者 E	<p>時間もないので手短かに話をする。まず、一つお願いがあり、今もあったように、このような場をもう少し広めていただきたい。PTA役員は毎年変わるので、そういった人の意見よりは、継続して話合いに参加できる環境があればいいと思う。あと今日のようにいろんなデータを見ることで、やはり意見も変わってくると思う。今日スライドを見た私の</p>

	感想としては、やはり全国的に人口が減っている中、宇陀市の人口が爆発的に増えたり出産数が増えたりというのはなかなか難しいと思うので、やはり将来的には統合とか考えていかないといけないと個人的には思う。ただ、先ほどあったようにICTの活用等によってそれを回避できるのであれば、ぜひ進めていただきたい。話は戻るが、やはりこういった場で、実際にデータなどを見て、いろんな意見を集めていただくことが重要と思う。検討委員会にとってはすごく労力がかかると思うが、このような重要なことに関しては、それを乗り越えた上で、今後どうするかを検討していただきたいと思う。
司会	いただいた意見をもち帰り、検討させていただきたいと思う。終了の時間になったので、新たな意見等があれば、受付で配布した感想用紙に記入いただきたい。

以下、感想用紙記述内容

参加者 D	ICTの導入は、今できる対策としては一番効果があると思う。早急に取り組んでもらいたい。少子化は日本全体の問題であるが、減っていくことを受け止めるだけでは、学校だけでなく、地域、市の消滅問題につながることになる。説明にもあったように人を増やすことに本気で取り組んでいただきたい。これは学校の問題ではなく、市全体の問題だ。
参加者 B	自身の子どもが通う大宇陀では、1学年10人を切るということはないため、小規模校に対しては考えが至らなかった。1学級の人数が多い少ないどちらに対しても考えていく必要があると感じた。私としては、1学級は20人前後にしていきたい。また、小さな子どもがいる人たちが移住したいと思えるような魅力ある学校にしていきたい。天理市の福住小学校は、複式にならないように市全体からの通学を可能にしている。また、福住小独自の教育方針をもち、魅力ある学校づくりをされているようだ。宇陀市内でも、行きたい学校に行けるようにするのもいいかもと思った。話を聞いて良かった。
参加者 F	室生小学校設立時、教育委員会から「小中一貫校を目指す」というコメントがあった。しかし、いまだに小学校と中学校の交流は進んでいない。子どもが減少する中では大事なことと思うので、よろしく願いたい。
参加者 G	具体的にどの方向に進めたいか、市としての現在の案を提示していただいた方が意見を出しやすいと思った。私の住んでいる榛原校区は、まだ子どもの数があるので危機感が薄いですが、人数の少ない校区での説明会を行った方がいろいろな意見が出ると思う。同時に、移住・定住促進の対策も願いたい。
参加者 E	今回のような場をもっと広い範囲で実施していただきたい。そうすることで、たくさんの意見を集めて検討していただきたい。紙面のやりとりだけでは物足りない。